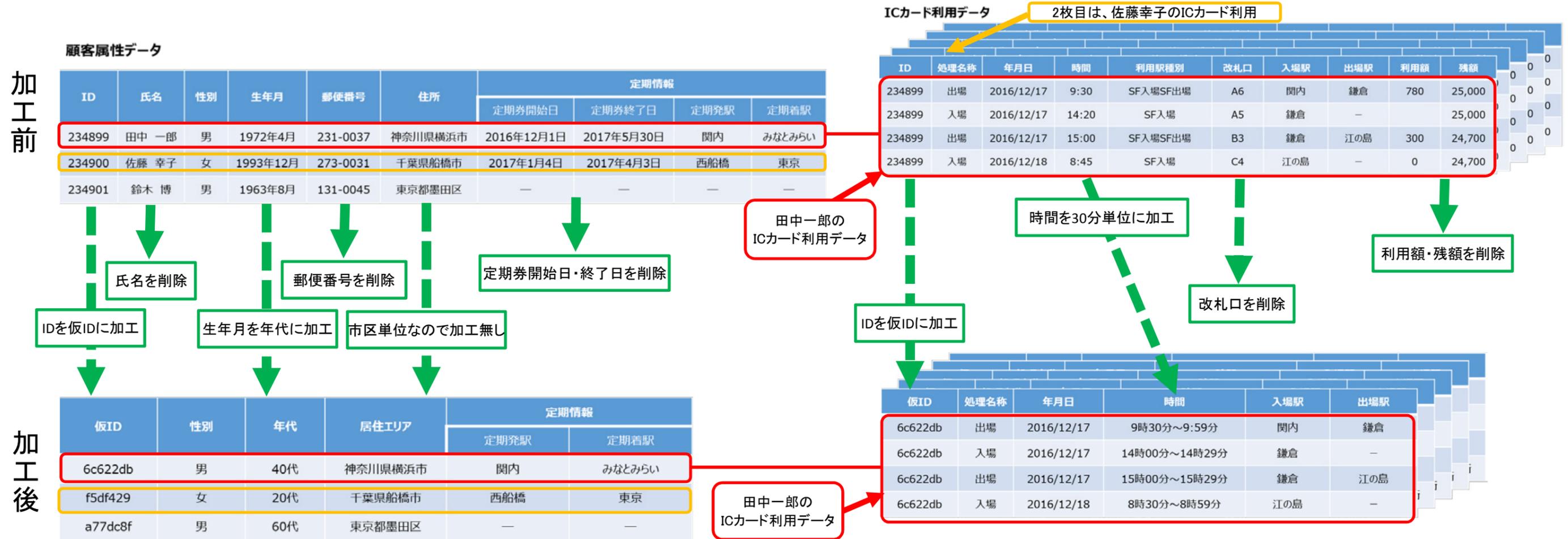


# 個人情報の加工例(鉄道会社が保有する乗降履歴に関するデータの場合)

鉄道の入場・退場の履歴に基づく人の動きに着目して分析する用途に利用するため、ICカードで鉄道を利用している人の個人情報を非識別加工情報に加工した例。



	項目	想定されるリスク	望ましい加工
① 個人属性情報	ID	顧客属性データとICカード利用データとを紐づける内部管理IDとして使用されている。	全部削除する、あるいは仮IDに置き換える。
	氏名	単体で個人を特定できる。	全部削除する。
	性別	住所(居住エリア)や生年月日等との組合せにより、個人の特定につながる可能性がある。	本ケースでは、生年月日と住所の加工により対応し、性別情報の有用性から加工をしない。
	生年月	住所や性別等との組合せにより、個人の特定につながる可能性がある。また、超高齢である場合は、それにより個人の特定につながる可能性がある。	年代の6区分(～20代/30代/40代/50代/60代/70代～)に置き換える。
	郵便番号・住所	性別や生年月等の情報との組合せにより、個人の特定につながる可能性がある。	本ユースケースの住所情報は市区単位までしか入っていないため、加工しない。郵便番号は不要と考えられることから全部削除する。
	定期券有効期間(開始日/終了日)	(提供先にとって不要な情報と想定)	本ケースでは、提供先において不要な情報と考えられるため、全部削除する。
	定期券区間(発駅/着駅)	自宅最寄り駅と勤務先等の最寄り駅を推測できる。また、他の情報との組合せにより、個人の特定につながる可能性がある。	定期区間として利用が少ない駅の情報を削除する。あるいは別の駅名に置き換える。
② 履歴情報	処理名称(出場/入場)	想定されるリスク無し	加工しない。
	利用日時(年月日・時間)	入場駅や出場駅に関する情報との組合せから、個人を特定できるリスク。	30分単位に置き換える。
	利用種別	(提供先にとって不要な情報と想定)	全部削除する。
	改札口	(提供先にとって不要な情報と想定)	全部削除する。
	入場駅/出場駅	入場駅と出場駅の組合せや利用時間帯によって、個人の特定につながる可能性がある。	入場駅、出場駅それぞれについて、利用者の少ない時間帯の情報を削除又は他の駅名に置き換える。
	利用額	定期券区間に関する情報を復元することができる。(提供先にとって不要な情報と想定)	本ケースでは提供先において不要な情報と考えられるため、全部削除する。
	残額	定期券区間に関する情報を復元することができる。(提供先にとって不要な情報と想定)	本ケースでは提供先において不要な情報と考えられるため、全部削除する。